

# 農産 F A X 情報 第 7 号

令和 4 年 8 月 1 5 日

ゆとりみらい 21 推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

## 1 秋まき小麦

### ○土壌分析の実施

- ・後作物の減肥・適正施肥を検討するうえで、土壌分析が重要です。施肥等を行う前に土壌のサンプリングを行い、土壌分析を実施しましょう。

### ○麦稈のすき込み・緑肥栽培

- ・麦稈は分解が遅いため、ストローチョッパー等で細断し、プラウですき込みましょう。
- ・すき込み当年の麦稈分解率は 30%程度です。C/N 比調整に窒素肥料を添加しても分解に利用されず、流亡することが想定されます。C/N 比の低い緑肥の栽培を検討しましょう。

表 1 緑肥作物の栽培例

緑肥	は種量 (kg/10a)	施肥量(kg/10a)			作付効果
		窒素	リン酸	カリ	
えん麦	15~20	4~6	5~10	0~5	後作のばれいしょそうか病発生軽減
えん麦野生種	10~20	5	5	0~5	後作のばれいしょそうか病発生軽減 ネグサレセンチュウ抑制

※家畜ふん尿・スラリーを化成肥料に代替可。

※土壌診断でリン酸・カリが過剰な場合は、窒素のみ施用。

## 2 ばれいしょ

### ○疫病の防除

- ・一部地域で疫病の発生が確認されております。菌が塊茎に感染すると、塊茎腐敗となる恐れがあります。塊茎腐敗に効果のある薬剤・倍率で防除を行いましょう。

### ○軟腐病の防除

- ・倒伏、なびきにより茎葉に損傷が生じているほ場が見られます。本病が発生しやすいため、疫病と合わせて防除を行いましょう。

### ○収穫作業の留意点

- ・収穫したイモの表面水分が高いと、傷から菌が入りやすく、貯蔵性が悪化します。緑化しにくい冷暗所で風乾しましょう。

表2 疫病（塊茎腐敗）の防除例

薬剤名	希釈倍率 (倍)	使用回数 (以内)	使用時期 (収穫前)	系統名
フロンサイドSC	1000	4回	7日前まで	他合成
リライアブルフロアブル	800~1000	3回	7日前まで	ハンスアミド ・カーバメート
プロポーズ顆粒水和剤	750~1000	5回	7日前まで	CAA ・クロコトリル
ランマンフロアブル	1500	4回	7日前まで	QiI

### 3 てんさい

○ヨトウガの防除

- ・8月下旬ごろからヨトウガの第二世代幼虫が発生し始めます。1回目より発生が多くなることもあるため、発生に注意しましょう。

○褐斑病・葉腐病防除

- ・褐斑病、葉腐病ともに一部で発生が確認されております。高温・多湿条件が続く場合は防除間隔を10日以下で実施しましょう。

### 4 豆類

○菌核病、灰色かび病の防除

- ・開花期以降、多湿条件が続いており、菌核病・灰色かび病の発生が懸念されます。引き続き、耐性菌の発生を防ぐため、ローテーション防除に努めましょう。

◎農薬・枯凋剤のドリフトに注意！

◎適度な休憩と塩分・水分補給で熱中症対策！！

◎農薬を適正に使用し、作業履歴は忘れず記帳！！！！